

# 平成28年度 燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査

(第1回 4月下旬分)

香川県水産試験場 環境資源部門 (藤田)  
TEL 087-843-6511/ FAX 087-841-8133

## ○カタクチイワシ卵の出現状況

卵が前年、平年より大幅に多く出現した。今年は水温が高いことから、産卵が早期化しているものと考えられる。

前年	平成27年4月22日	(17点の平均)	10.7 個/m <sup>3</sup>
前回	平成28年4月5日	(7点の平均)	23.1 個/m <sup>3</sup>
今回	平成28年4月19日	(17点の平均)	59.4 個/m <sup>3</sup>
※4月下旬の平年値			3.7 個/m <sup>3</sup>

## ○カタクチイワシ仔魚の出現状況

仔魚が前年、平年より多めに出現した。

前年	平成27年4月22日	(17点の平均)	0.2 尾/m <sup>3</sup>
前回	平成28年4月5日	(7点の平均)	0.0 尾/m <sup>3</sup>
今回	平成28年4月19日	(17点の平均)	1.0 尾/m <sup>3</sup>
※4月下旬の平年値			0.0 尾/m <sup>3</sup>

## ○プランクトン調査

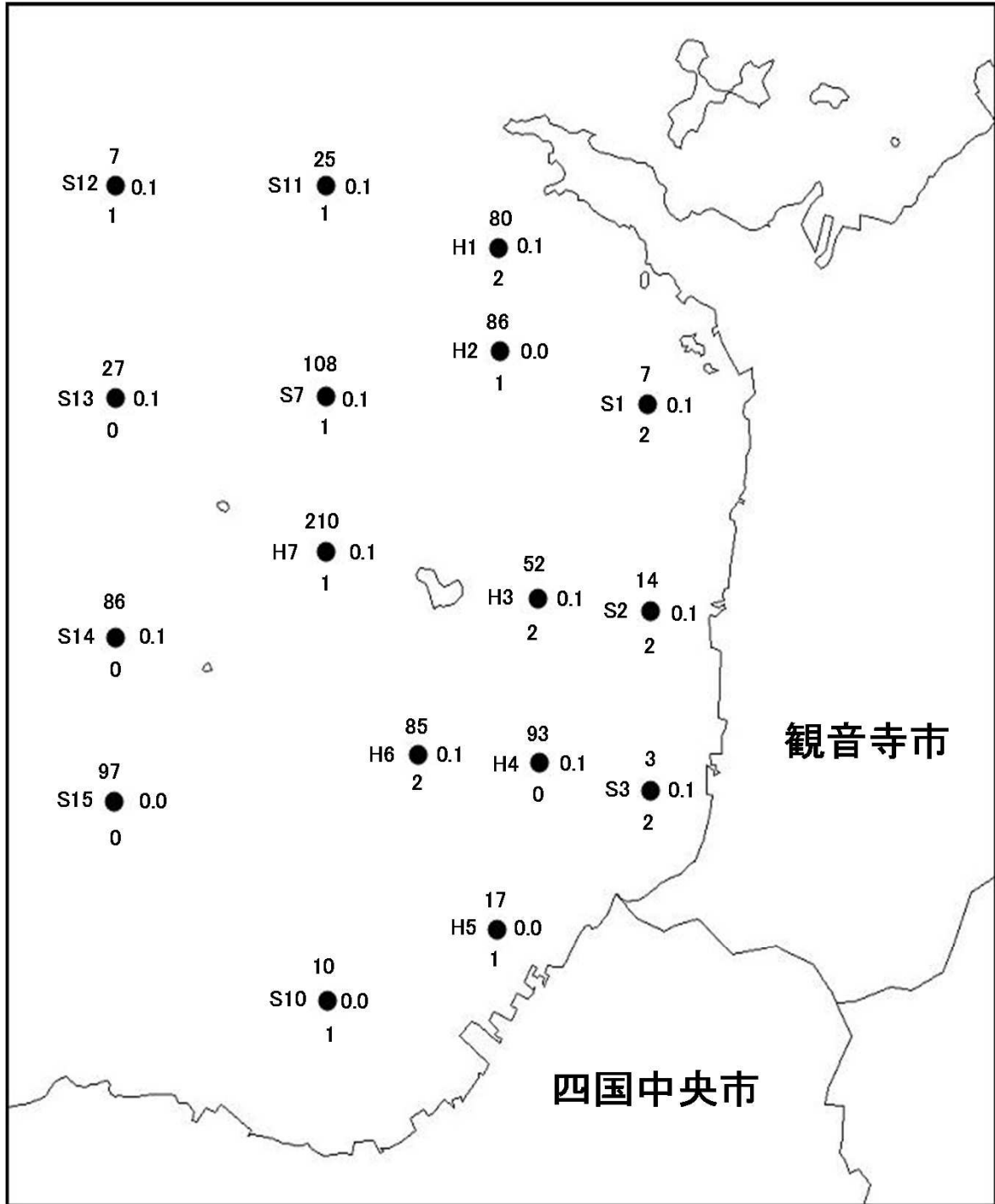
プランクトン量では、ノクチルカ(夜光虫)が多かった。  
カタクチイワシの餌となるカイアシ類量は平年よりもやや少なかった。

## ○クラゲ調査

アカクラゲが、前年より多かった。

次回の調査は4月27日(水)の浅定調査に合わせて実施予定

カタクチイワシ卵稚仔採集状況(2016/4/19)



●の上側がカタクチイワシ卵数/m<sup>3</sup>を  
下側がカタクチイワシ稚仔数/m<sup>3</sup>を、  
右側がカイアシ類量(ml/m<sup>3</sup>)を示す。

※カイアシ類量は、プランクトン採集量

(0.335mm以上)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出した概算値。

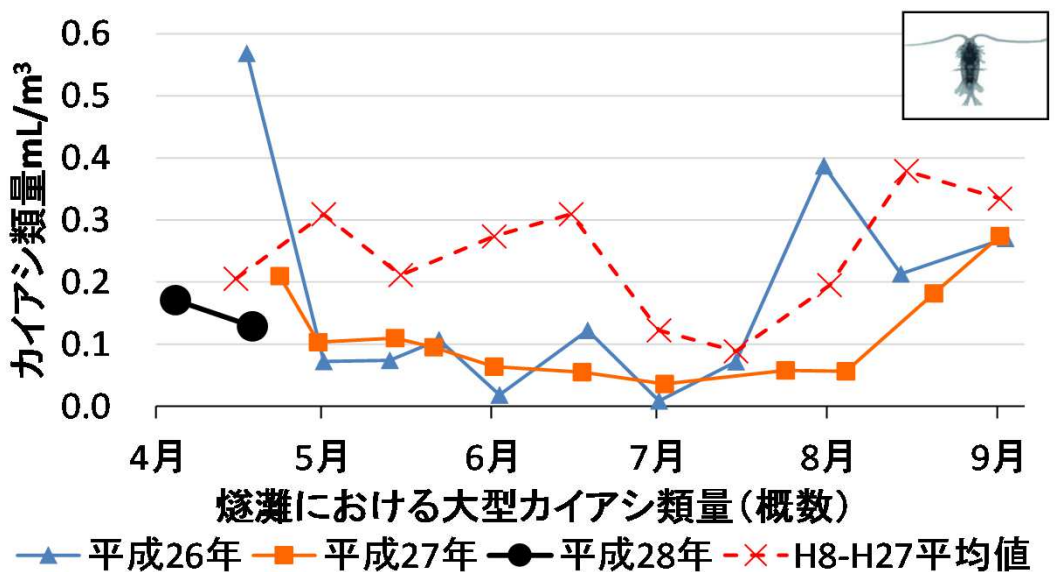
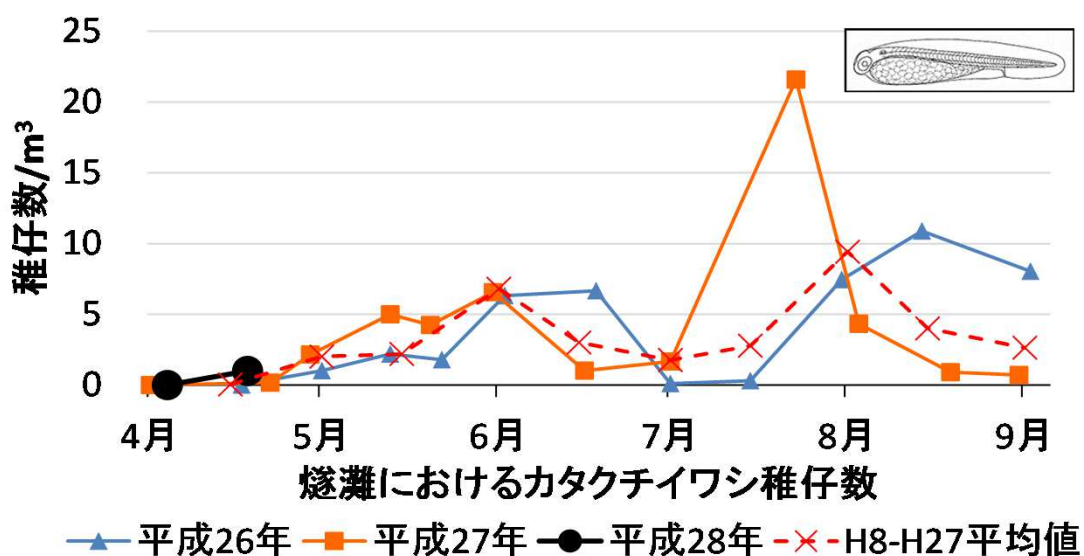
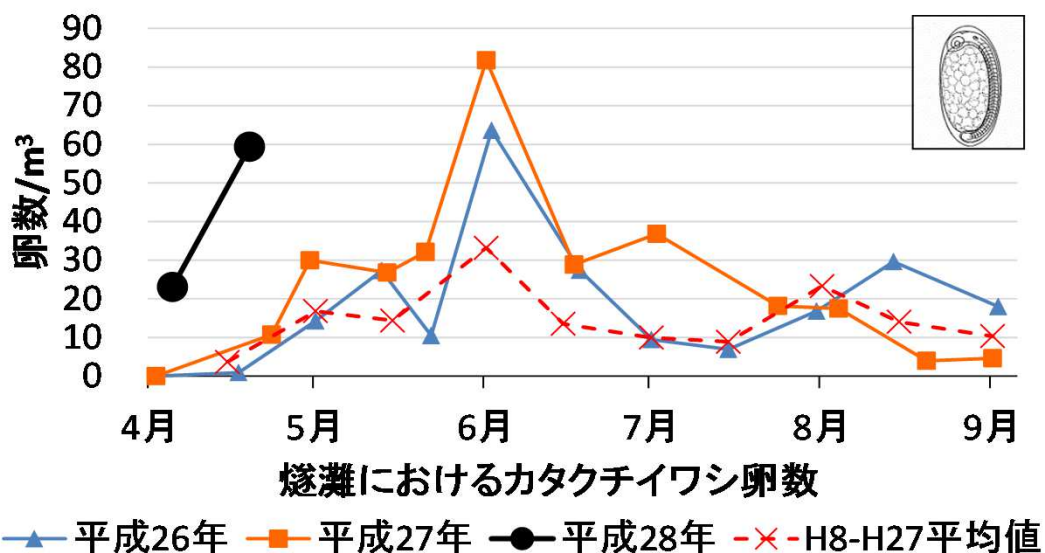
21 ← 卵数  
凡例 ● 0.6 ← カイアシ類量  
5 ← 稚仔数

平成28年度燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査(1回目)

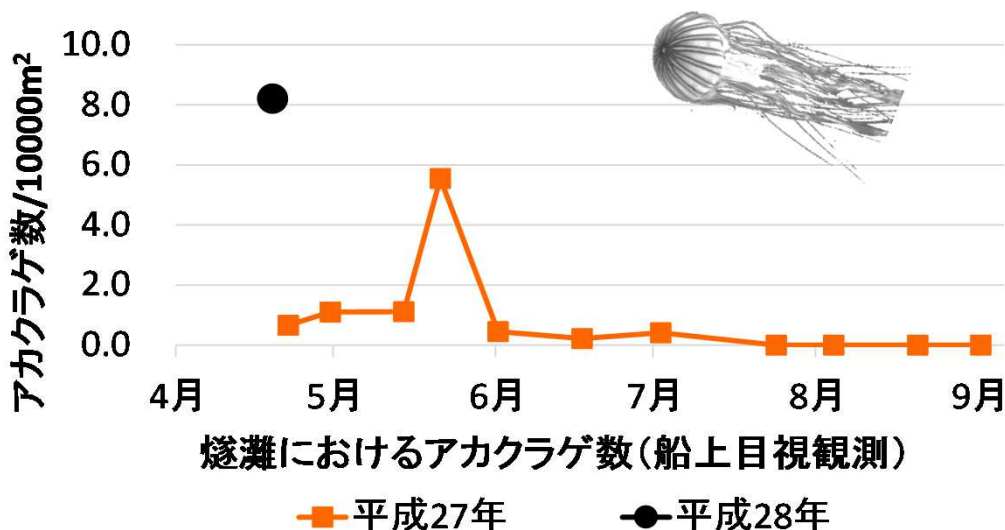
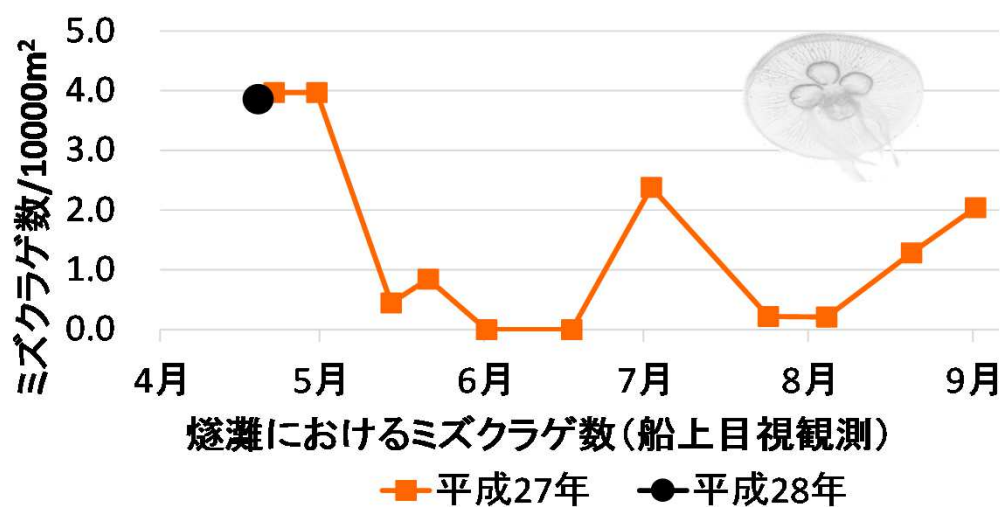
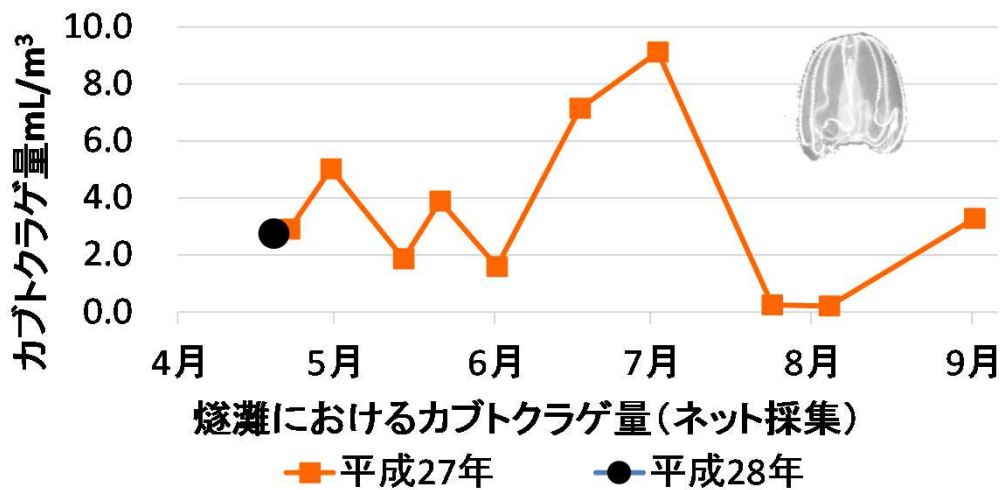
調査日: 2016/4/19

S T	曳網水深 (m)	表層水温 (°C)	カタクチ 卵	マイワシ 卵	その他 卵	カタクチ 稚仔	マイワシ 稚仔	その他 稚仔
H1	20	14.6	80	0	1	2	0	0
H2	20	15.2	86	0	1	1	0	0
S1	20	15.4	7	0	0	2	0	0
S2	20	15.4	14	0	4	2	0	1
H3	20	15.2	52	0	1	2	0	0
S3	20	15.5	3	0	5	2	0	0
H4	20	15.6	93	0	2	0	0	0
H5	20	15.1	17	0	5	1	0	0
S10	20	15.0	10	0	1	1	0	0
H6	20	14.5	85	0	2	2	0	1
H7	20	14.6	210	0	1	1	0	0
S7	20	14.2	108	0	1	1	0	0
S11	20	14.3	25	0	0	1	0	0
S12	20	14.4	7	0	1	1	0	0
S13	20	14.4	27	0	0	0	0	0
S14	20	14.4	86	0	4	0	0	0
S15	20	14.6	97	0	2	0	0	0
7点平均		15.0	89	0	2	1	0	0
平均		14.8	59	0	2	1	0	0

※なお7点平均は浅海定線調査を行っているH1~H7の平均 ※採集数はm<sup>3</sup>当たりの数



※カイアシ類量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照下さい。



※カブクラゲは丸特Bネットによる全定点の平均採集量。ミズクラゲ、アカクラゲはH1～H7の7点における平均船上目視観測数(船速平均約7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mの範囲で視認できるクラゲの数)。クラゲ発生量の目安としてご参照ください。

※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。